

高松市生涯学習事業推進状況一覧表

No	施策体系 (別紙1) 参照				事業名	実施主体	事業概要	重点項目 (別紙2) 参照				R4年度事業内容 (実績)	評価指標				成果と 今後の課題	課名	
								ア	イ	ウ	エ		指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	評価			※新型コロナ ウイルス感 染症の影響
1	IV	1	(1)	エコホテルの利用促進事業	市	南部クリーンセンターで施設見学、親子リサイクル工作会、環境パネルの展示、環境啓発DVDの視聴などを実施する。	○	○			・親子工作会を8回実施。 ・親子見学会を12回実施。	エコホテル利用者数	3,205人	3,015人	B	有	令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、前年度に比べ、見学会等の定員数を縮小するなどの対策を講じて開催した。令和5年度については、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、見学会等の開催回数や定員数を見直すなど、利用者数増加を目標とし、環境学習事業を実施する。	南部クリーンセンター	
2	IV	1	(1)	伝統的ものづくり夏休み親子体験教室	市	親子で本市の伝統的ものづくりへの理解と関心を深め、普及啓発を図ることを目的とし、夏休みの宿題解決や子どもと大人と一緒に地域の伝統的ものづくりにふれあい、学ぶ体験の場にするるとともに、シビックプライドの醸成につながる場を創出する。	○				夏休みの期間中、市内在学の小学生親子を対象に、伝統的ものづくりの職人等を講師として、讃岐のり染、菓子木型、讃岐かがり手まり、組手障子、盆栽及び保多織の体験教室を開催した。開催講座 6コース(各午前・午後の2回) 参加者数 270名	参加者数	253名	270名	A	無	参加者への満足度調査では、調査の開始以来一定程度の高評価を維持しており、「いい経験ができた」「また参加したい」との声もあることから、伝統的ものづくりにふれあい、学ぶ体験の場とし、理解や関心を深めることができた。アンケート結果を基に改善し、高松市の伝統的ものづくりへの理解と関心を深め、普及啓発を進めるとともに、人づくりの推進も図る。	産業振興課	
3	IV	1	(1)	夏休み市場DE自由研究事業	中央卸売市場運営協議会	市場見学等により、生鮮食品等に触れる機会の提供、市場の機能や流通システム等について学習する。		○			新型コロナウイルス感染症防止対策として、市場で取り扱う生鮮食品の試食を中止したほか、来場者の検温、消毒及びマスク着用の励行を実施しながら、規模を縮小して事業を実施した。	参加者数	花き部：7月22日7：30～10：30 参加者数：12組24人 青果部：7月23日6：30～9：30 参加者数：14組29人 水産物部：7月31日5：45～9：00 参加者数：14組32人 計3回40組85人で開催	花き部：7月18日7：30～10：30 参加人数：9組18人 ※青果部、水産物部、花き部2回目は新型コロナウイルス感染症の拡大により中止とした。	C	有	令和4年度は、新型コロナウイルス感染症が拡大する中、感染症防止対策を講じたうえで、感染の状況を見極めながら事業を実施した。令和5年度においては、感染症対策を講じながら各部2回の開催を目指す。	市場管理課	

高松市生涯学習事業推進状況一覧表

No	施策体系 (別紙1) 参照				事業名	実施主体	事業概要	重点項目 (別紙2) 参照				R4年度事業内容 (実績)	評価指標				成果と 今後の課題	課名	
								ア	イ	ウ	エ		指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	評価			※新型コロナ ウイルス感 染症の影響
4	IV	1	(1)	親子文化財教室	市(高松市文化財保護協会共催)	小・中学生と保護者を対象に、年2回、郷土の歴史・文化財を学習し、文化財を身近に学ぶ機会を提供する。					○	「草木染めを体験しよう！」(8/5) 「しめなわかざりを作ろう！」(12/4)	参加人数	138人	76人	C	有	令和4年度は、前年度と同様に午前・午後の2部制を取り入れたが、実施に相応しい広い会場の確保が難しく、講座の定員を減少せざるを得なかったことや、直前でのキャンセルが相次いだため、前年度の実績を下回る結果となった。 令和5年度については、会場の確保に努め、新型コロナウイルス感染症対策の緩和状況等を勘案し実施する予定。	文化財課
5	IV	1	(1)	香南歴史民俗郷土館子ども講座	市	香南歴史民俗郷土館で、夏休みを中心に、郷土の歴史文化を体験する、子ども講座を開催する。					○	「手習草子(書道教室)」(7/28) 「勾玉をつくろう」(7/29) 「ねん土で家紋をつくろう」(7/31) 「ダンボールで獅子頭をつくろう」(8/11) 「戦争についてまなぶ!!「紙芝居と朗読から戦争について学ぼう」」(8/7)	参加人数	2講座 26人	5講座 96人	A	無	好評であり、前年度を上回る参加者であった。今後も講座内容の充実や積極的な広報活動に努めていく。	文化財課 (香南歴史民俗郷土館)
6	IV	1	(1)	夏休み子ども歴史講座	市	小中学生を対象に、夏休みの自由研究として郷土の歴史をテーマに調査研究できるよう、夏休み子ども歴史講座を開催する。					○	夏休み子ども歴史講座「探検! 桜御門」(8/6)	参加者数	26人	20人	C	有	新型コロナウイルス感染症の影響により、参加者は前年度を下回った。今後も講座内容を検討し、積極的な広報活動に努めていく。	文化財課 (歴史資料館)
7	IV	1	(1)	新春子どもフェスティバル	市	毎年2月第1日曜日に中央公園を中心に、校区対抗「かるたとり・ドッジボール・すもう大会」、自由参加の創作コーナー等多彩なプログラムで開催する。					○	開催日：令和5年2月4日(日) 場所：高松市立中央公園、四番丁スクエア、体育館 内容：校区対抗(かるたとり、ドッジボール、すもう)自由参加(遊び名人コーナーほか) 参加人数：約3,000人	参加人数	-	約3,000人	評価不可	有	新型コロナウイルス感染症対策のため、バザーや露店の出店はなく、開催時間を短縮して実施した。 かるたとり大会は、子どもたちのふるさと高松を愛する心の育成を目的として令和4年に作製した「高松わくわくかるた」を使用して実施した。 令和5年度については、コロナ前の開催規模で事業を実施していく必要がある。	生涯学習課
8	IV	1	(1)	子ども会フットベースボール大会	市	子ども達がスポーツを通して交流し友情を育む機会として、校区子ども会を対象にフットベースボール大会を開催する。					○	開催日：令和4年9月4日(日) 開催場所：高松市西部運動センター 参加チーム：男子の部9チーム、女子の部4チーム 総勢：156人	参加校区数	-	男子8校区 女子4校区	評価不可	有	新型コロナウイルス感染症の対策のため、開催時間を半日として実施した。また、熱中症等にも注意を払いながら実施した。 参加校区数が年々減少傾向にあるため、市子連と協力しながら参加校区数の増加につながる取組を検討する必要がある。	生涯学習課

高松市生涯学習事業推進状況一覧表

No	施策体系 (別紙1) 参照				事業名	実施主体	事業概要	重点項目 (別紙2) 参照				R4年度事業内容 (実績)	評価指標				成果と 今後の課題	課名	
								ア	イ	ウ	エ		指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	評価			※新型コロナ ウイルス感 染症の影響
9	IV	1	(1)	少年団体育成事業	市	校区子ども会育成連絡協議会相互の連携を図り、子ども会活動の充実と子どもの健全育成のため高松市子ども会育成連絡協議会の運営を支援する。					高松市子ども会育成連絡協議会に対し、運営補助金を交付。	子ども会加入率	67.7%	67.8%	A	無	子ども会加入率については、概ね前年度並である。令和4年度は、子ども会の加入促進を目的としたパネル展を実施した。引き続き、高松市子ども会育成連絡協議会の自主運営による子ども会活動の加入促進が図れる支援方法を検討する必要がある。	生涯学習課	
10	IV	1	(1)	子ども会育成指導者養成事業	市	各校区の子ども会リーダー・育成者を対象に、子ども会活動に必要な実技指導の講習会を開催する。					講習会・研修会を年4回実施 6月：新役員講習会（ホテルセカンドステージ） 9月：リーダー研修会（YASU海の駅クラブ） 11月：指導者講習会（小豆島） 2月リーダー研修会（男木島）	参加校区数	3校区	10校区	A	有	新型コロナウイルス感染症の影響はあったものの、計画のとおり年4回実施でき、多くの校区から参加いただけた。 令和5年度も年4回の実施を予定である。参加人数の増加に向けた取組について検討していく必要がある。	生涯学習課	
11	IV	1	(1)	地域活動促進事業	市	地域における子ども活動の充実・拡大のため、子ども会や育成会が実施する研修会や事業に、専門的な指導・助言を行う指導員を派遣する。					生涯学習課のHPを通して事業の概要と、指導者派遣について広報指導者14名を委嘱	申請件数	1件	0件	C	有	新型コロナウイルス感染症の影響で子ども会等が行事を中止、縮小していたため実施がなかった。 令和5年度については、事業の利用促進に向けた周知方法等を検討していく必要がある。	生涯学習課	
12	IV	1	(1)	職場体験学習	小中学校	児童生徒の実態や発達段階に応じて、社会体験・職場体験活動等を通して、望ましい勤労観・職業観を育む。					新型コロナウイルス感染症の影響で、授業時数の確保や学校行事の見直しにより、職場を訪問しての体験活動を実施した学校が数校ある。事業所から人を派遣していただき、講話を聴く活動を実施した学校が数校ある。	実施学校数	中学校0校（全22校） 0% (訪問実習校数)	中学校数校（全22校） 0% (訪問実習校数)	C	有	新型コロナウイルス感染症の影響については、5類移行にともない事業所の受け入れも可能になると思われる。したがって、コロナ禍前の実施に戻ると思われる。	学校教育課	
	I	1	(2)																
13	IV	1	(1)	年長児童の赤ちゃん・出会い・ふれあい事業	市	次代の親づくりとして、命の大切さや家庭の役割等について理解を深めるため、年長児童が乳幼児や保護者と出会い・ふれあい・交流する場を開設する。					Web会議サービスを使用したオンライン形式やDVDの視聴も含め、13校の中学校がふれあい体験事業を実施した。	ライフデザインを考えるきっかけとなった生徒の割合	79%	80%	A	有	令和4年度は、3年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、参加者の安全を考慮し、オンライン形式等の非接触型の実施が中心となったが、一部の学校では直接的なふれあい体験を再開することができた。 令和5年度は、十分な感染症対策を講じた上で、各学校の希望に応じた実施方法により事業を実施する。	子育て支援課	
	I	2	(10)																

高松市生涯学習事業推進状況一覧表

No	施策体系 (別紙1) 参照			事業名	実施主体	事業概要	重点項目 (別紙2) 参照				R4年度事業内容 (実績)	評価指標				成果と 今後の課題	課名	
							ア	イ	ウ	エ		指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	評価			※新型コロナ ウイルス感染症 の影響
14	IV	1	(1)	保育所・幼稚園等への芸術士派遣事業	市(委託)	子どもの感性や創造力を育むため、保育所・幼稚園等に芸術士を派遣し、日々の保育の中で、絵画や造形、音楽など様々な表現活動を行う。		○		実施施設 保育所・こども園 65施設 幼稚園 32施設	実施経験施設数	89カ所	106カ所	A	有	実施している施設についてアンケートを実施しているが、概ね高評価である。	こども保育教育課	
	I	2	(10)															
15	IV	1	(1)	サンクリスタル学習	市	主に小学校6年生を対象に、歴史資料館・菊池寛記念館・中央図書館での体験学習「サンクリスタル学習」を実施する。		○		主に小学校6年生を対象に、歴史資料館・菊池寛記念館・中央図書館での体験学習「サンクリスタル学習」を実施した。	実施校数	22校	32校	A	有	前年度より参加校は増加したものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、予定を中止としたものがあつた。今後も感染症対策を十分に講じた上で、事業の充実に努めていく。	文化財課 (歴史資料館 菊池寛記念館 中央図書館)	
	I	2	(10)															
16	IV	1	(1)	美術館学習	市	子どもたちが豊かな感性と未来の鑑賞者としての資質を育むため、美術館での鑑賞・施設学習を実施する。		○		子どもたちが豊かな感性と未来の鑑賞者としての資質を育むため、美術館での鑑賞・施設学習を実施した。	美術館学習参加者数	参加校 23校 延べ参加者数 1,319人 (引率者含む)	参加校 64校 延べ参加者数 2,142人 (引率者含む)	A	無	新型コロナウイルス感染症の影響が少ない学外活動としての利用が増え、また展覧会やランチ・ギャラリーの活用によって学校の美術館の活動への認知が広まったことにより、前年度及び新型コロナウイルス感染症流行以前(H31年度)と比較しても参加校数、参加者数ともに増加している。引き続き、学校との連携を意識した活動を企画していきたい。	美術館美術課	
	I	2	(10)															
17	IV	1	(1)	まなびCANこども教室	市	生涯学習センターにおいて、ボランティア講師による、小・中学生を対象としたものづくりや環境問題等の講座を開催する。		○		生涯学習センターにおいて、ボランティア講師による、小・中学生を対象としたものづくりや実験教室などを開催した。	参加者数	102人	93	B	有	新型コロナウイルス感染症の影響があつたが、昨年度と同程度の参加者数で講座を開催した。今後も、ボランティア講師を積極的に募集し幅広く各種の講座を開催する。	生涯学習センター	

高松市生涯学習事業推進状況一覧表

No	施策体系 (別紙1) 参照				事業名	実施主体	事業概要	重点項目 (別紙2) 参照				R4年度事業内容 (実績)	評価指標				成果と 今後の課題	課名	
								ア	イ	ウ	エ		指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	評価			※新型コロナ ウイルス感染 症の影響
18	IV	2	(1)	放課後子ども教室	市	放課後や週末等に小学校の余裕教室等を活用して、地域の人々の参画のもと、子どもたちに学習や様々な体験・交流活動の機会を提供する。	○	○			実施校区数は前年度から増減がなかった。 ・参加児童数 22,997人 ・登録児童数 1,992人	実施校区数	34校区	34校区	A	無	新型コロナウイルスの感染対策を実施しながら、全34校区で放課後子ども教室を実施することができた。 一方で、事業委託先である地域の関係団体を組織する構成員の高齢化に伴い、人材の確保・育成が課題となり、新規開設が困難となっている。今後も、実践的かつ多様な研修を実施し、人材を育成することにより、事業の充実を図るとともに、未実施校区の関係団体に対し、教室開設の働き掛けを継続し、新規開設校区の増加を図る必要がある。	子育て支援課	
19	IV	2	(3)	出前講座「家庭における就学前情報モラル教育について」	市	スマートフォンやタブレット、ゲーム機等によるインターネットの長時間利用によるネット・ゲーム依存が、子どもたちを取巻く社会問題となっている。とりわけ、幼少期からインターネットに触れる機会が多くなり、内閣府の調査によると小学校入学までに50%以上の幼児がインターネットを利用している。そこで、少年育成センターの職員が、未就学児の保護者向けに講話を行い、ネット・ゲーム依存の実態や防止策等の啓発を行うとともに、安心して安全なインターネット利用について保護者に考えてもらう機会とする。		○			弦打幼稚園、木太北部幼稚園、香西幼稚園に職員を派遣して、未就学児の保護者に対し、ネット・ゲーム依存対策をはじめとする安全・安心なインターネットの利用に関して、注意してほしいことについての講話を行った。 (3園)	実施園数	令和4年度からの新規事業のため、実績なし	3園	評価不可	無	低年齢化する子どものインターネット利用に対する保護者の不安に対し、ネット・ゲーム依存の実態や防止策等の啓発を行うことで、考える機会を持ってもらえた。 引き続き多くの園で講話が行えるよう周知を図ってまいりたい。	少年育成センター	

高松市生涯学習事業推進状況一覧表

No	施策体系 (別紙1) 参照				事業名	実施主体	事業概要	重点項目 (別紙2) 参照				R4年度事業内容 (実績)	評価指標				成果と 今後の課題	課名	
								ア	イ	ウ	エ		指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	評価			※新型コロナ ウイルス感染 症の影響
20	V	1	(1)	掃除教育「びかびかデー」	市	幼稚園・小学校で、地域の高齢者等から掃除の仕方を学びながら清掃活動・心の教育を行う。	○	○			(こども保育教育課) 実施施設：幼稚園19園、こども園10園 月1回程度、園児が保護者や地域の老人会等と一緒に園内や地域の清掃をした。 (新型コロナウイルス感染防止のため、場合により、園児及び職員のみで実施。) (学校教育課) 小学校、中学校で、地域の高齢者等から掃除の仕方を学びながら清掃活動・心の教育を行った。	(こども保育教育課) 実施幼稚園数 (学校教育課) 実施小・中学校数	(こども保育教育課) 幼稚園19・こども園10 (学校教育課) 小学校47校・ 中学校22校	(こども保育教育課) 幼稚園19・こども園10 (学校教育課) 小学校47校・ 中学校22校	A	有	(こども保育教育課) 園児が自分で身の周りをきれいに する心地よさや有用感を味わう とともに、地域の人や保護者との ふれあいの場となった。 今後も、新型コロナウイルス感 染症対策を講じた上で、事業を継 続的に実施できるよう取り組む予 定である。 (学校教育課) 児童会、生徒会を中心に清掃活動 を行うだけでなく、保護者や地域 の方と一緒に実施することで、児 童生徒の自主性や心の醸成につな がった。	こども保育教育課 学校教育課	
21	V	1	(1)	スマイルあいさつ運動	市	学校・家庭・地域社会が一体となり地域ぐるみで子どもを育てる活動の一環とし「スマイルあいさつ運動」を実施する。	○	○			学校が家庭や地域社会に働きかけ、学校や地域の実態に応じて定期的に実施。ただし、新型コロナウイルス感染症予防の観点から、小・中合同での実施はできていない。	スマイルあいさつ運動 実施校数	小学校 全47校 中学校 全22校 100%	小学校 全47校 中学校 全22校 100%	A	有	児童生徒、教職員、保護者、地域住民が連携協力して、あいさつや声を掛け合うことを通して、「節度ある生活習慣」「礼儀」「思いやり」「感謝」等、豊かな心を育み、学校・家庭・地域社会を活性化していくことにつながった。	学校教育課	
22	V	1	(1)	学校評議員制度推進事業	市	地域社会に開かれた学校づくり、家庭・地域との連携協力、特色ある教育活動の展開のため、保護者や地域の意見を幅広く聞く場として、第一高松高等学校に、高松型運営協議会を設置する。	○	○			高松第一高等学校に学校評議員会を設置し、約10名の評議会委員を委嘱及び任命した。	高校	高校 全1校 100%	高校 全1校 100%	A	有	学校運営に関して高松市教育委員会及び校長の権限と責任の下、保護者及び地域住民等の学校運営への参画の促進や連携強化を進めることにより、学校と保護者、地域住民等と信頼関係を深め、一体となって学校運営の改善や生徒の健全育成に取り組んだ。	学校教育課	

高松市生涯学習事業推進状況一覧表

No	施策体系 (別紙1) 参照				事業名	実施主体	事業概要	重点項目 (別紙2) 参照				R4年度事業内容 (実績)	評価指標				成果と 今後の課題	課名	
								ア	イ	ウ	エ		指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	評価			※新型コロナ ウイルス感染症 の影響
23	V	1	(1)	高松型学校・地域連携システム推進事業	市	児童・生徒の健全な成長や学びを地域全体で支え、地域連携を中心とした教育活動の充実を図るため、高松型学校運営協議会を各小・中学校に設置し、学校やPTA、地域住民、各種団体等との連携を図る。	○	○			全小・中学校に、高松型運営協議会を設置し、900名を超える協議会委員を委嘱及び任命した。	小学校・中学校	小学校 全47校 中学校 全22校 100%	小学校 全47校 中学校 全22校 100%	A	有	学校運営に関して高松市教育委員会及び校長の権限と責任の下、保護者及び地域住民等の学校運営への参画の促進や連携強化を進めることにより、学校と保護者、地域住民等と信頼関係を深め、一体となって学校運営の改善や児童生徒の健全育成に取り組んだ。	学校教育課	
24	V	1	(1)	中学校運動部活動講師・部活動指導員派遣事業	市	運動部活動のうち、技能の取得過程で危険を伴う競技(柔道・剣道・なぎなた)を対象に、専門性等に優れた外部指導者を派遣する。学校における部活動指導方針に沿い、部活動の指導全般、単独の指導、大会等への引率を行う部活動指導員を派遣する。	○			外部指導者6名、部活動指導員3名の委嘱・派遣を行った。	派遣希望学校(競技)数	9人	9人	A	無	講師派遣希望があった学校に講師を委嘱・派遣し、生徒への技術的な面や精神的な面での指導、並びに部活動担当教員に対して指導方法等の助言ができ、また部活動指導員を派遣することで、顧問として指導、引率等の職務を行うことで教員の負担軽減に繋がった。今後、部活動指導員の拡充を図るためには、専門指導が行える人材確保が重要である。	保健体育課		
	I	2	(4)																
25	V	1	(1)	学校教育推進事業 (R1事業名変更)	学校教育活性化推進事業実施校(補助)	総合的な学習の時間の活性化を図るため、地域社会の人材活用や児童生徒の体験活動の充実を図る。	○	○		全小・中学校で地域人材を活用した総合的な学習の時間を実施し、体験活動の充実が図られた。	地域人材の活用	小学校 全47校 中学校 全22校 100%	小学校 全47校 中学校 全22校 100%	A	有	全ての小・中学校で地域人材を活用し、児童生徒の体験活動の充実が図られた。今後、地域人材の安定的確保が課題である。感染症予防のため、人数を制限したり、時間を短縮するなど、これまで同様の活動は実施できていない。	学校教育課		
	I	2	(10)																
26	V	1	(1)	地域に開かれた幼稚園づくり推進事業	市	幼稚園を地域に開放し、園庭開放や園児と未就園児親子の交流活動、子育て情報提供・相談等を実施する。	○			実施施設：幼稚園19園 園庭開放、園児と未就園児親子の交流活動、子育て相談等を実施した。 (新型コロナウイルス感染状況を考慮しながら、可能な限り実施した。)	実施幼稚園数	19園	18園	B	有	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、事業を縮小、中止した施設もあったが、感染症対策を徹底し、内容を工夫しながら、事業を継続的に実施したことにより、園児と地域の未就園児が安心して遊ぶことのできる交流活動の実施や、保護者の子育ての悩みを軽減できる機会の提供につながった。	こども保育教育課		
	V	2	(1)																

高松市生涯学習事業推進状況一覧表

No	施策体系 (別紙1) 参照				事業名	実施主体	事業概要	重点項目 (別紙2) 参照				R4年度事業内容 (実績)	評価指標				成果と 今後の課題	課名	
								ア	イ	ウ	エ		指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	評価			※新型コロナ ウイルス感染症 の影響
27	V	2	(1)	地域子育て支援拠点事業	市(委託、直営)	乳幼児及び保護者が相互交流する場を開設し、子育てについての相談、情報提供、助言など支援を行う。					○	私立保育所及び認定こども園に委託(旧センター型) 16か所 週6~7日開設 10,490千円×1か所 週5日開設 9,915千円×13か所 小規模型 3,043千円×1か所 (利用者支援事業5日型 8,398千円×1か所)	実施施設数	17か所	16か所	B	有	人員配置の関係から、R3より委託施設が1園減少したことに加え、新型コロナウイルス感染症防止対策のため、中止となった講座があったが、昨年度と同程度の参加者数で講座を開催した。今後とも、各地域のニーズに応じた学習機会を提供できるよう、各コミュニティセンターと情報共有を行う。	こども保育教育課
28	V	2	(1)	地域子育て推進事業	市(委託、直営)	子育て家庭の不安を軽減するため、保育所等を地域に開放し、育児相談や子育てサークル支援等を行う。					○	私立保育所、認定こども園等 15か所 (委託料：1か所あたり450千円が上限)	実施施設数	15か所	16か所	A	有	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、事業を中止した施設もあるが、感染症対策を徹底しつつ、事業を継続的に実施したことにより、育児相談や子育てサークル等に対する支援の充実につながった。	こども保育教育課
29	V	2	(1)	地域子育て推進事業	市(委託、直営)	子育て家庭の不安を軽減するため、保育所等を地域に開放し、育児相談や子育てサークル支援等を行う。					○	実施施設：市立保育所16か所、市立こども園10か所 在園(所)児と一緒に、施設の行事や集会などへの参加や、保護者と一緒にふれあい遊びを楽しむ機会を提供した。 また、育児相談、情報提供、入園(所)案内も実施した。 (新型コロナウイルス感染症状況を考慮しながら、可能な限り実施した。)	実施施設数	市立保育所15か所 市立こども園9か所	市立保育所16か所 市立こども園10か所	A	有	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、事業を縮小、中止した施設もあるが、感染症対策を徹底しつつ、事業を継続的に実施したことにより、育児相談や子育てサークル等に対する支援の充実につながった。	こども保育教育課
30	V	2	(1)	保育所・幼稚園への出前食育事業	市	保育所・幼稚園等において、子どもたちや保護者に講話やエプロンシアター・紙芝居等を実施し、幼児期からの正しい食習慣づくりを支援する。					○	保育所・幼稚園等において、児童を対象に、講話やエプロンシアター、紙芝居等を実施した。 市立保育所 6か所、市こども園 5か所、市立幼稚園 6か所 合計 17か所	実施施設数	10か所	17か所	A	有	新型コロナウイルス感染症の影響により、当初予定していた出前食育が中止となった施設もあるが、幼児期における望ましい食習慣づくりへの支援等につながった。	こども保育教育課



高松市生涯学習事業推進状況一覧表

No	施策体系 (別紙1) 参照				事業名	実施主体	事業概要	重点項目 (別紙2) 参照				R4年度事業内容 (実績)	評価指標				成果と 今後の課題	課名	
								ア	イ	ウ	エ		指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	評価			※新型コロナ ウイルス感染症 の影響
31	V	2	(1)	学校教育における食育推進事業	市	学校給食を中心とした食育の取組みを紹介するとともに、食の現状や課題への理解を深め、食の大切さを伝えるために、「食育セミナー」を開催する。					高松市朝日新町学校給食センターで年4回(7、8、11、3月)計画していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、11、12月の2回のみ実施。 7月 朝日新町学校給食センター見学会 → 中止 8月 子ども料理教室 → 中止 11月 収穫体験 8組18人 3月 親子料理教室 8組16人	食育セミナー開催回数	0回	2回	A	有	収穫体験や料理教室等の食育セミナーを通して、学校給食や食への関心を高め、家庭における食生活を見直す機会を提供することができた。	保健体育課	
32	V	2	(1)	家庭教育応援講座	市	就学時健康診断等の機会を活用し、就学前児童の保護者を対象に、家庭教育の専門家等による講座を開催する。					令和4年度より、家庭教育学級を廃止し、子育て力向上応援講座と統合し、新たに「家庭教育応援講座」とした。就学時健康診断や授業・保育参観日等を活用し、家庭での教育力向上を図った。 ・小学校+PTA 延べ72回 ・幼稚園こども園保育所(公立)+PTA 56回	講座実施か所数	89か所	128か所	A	有	令和4年度から、従前の子育て力向上応援講座の実施内容を見直し、実施主体等を拡充したことで講座実施か所数は前年度実績を上回った。 私立の保育園や幼稚園での実施が少ないことから、積極的な周知が必要である。	生涯学習課	
33	V	2	(1)	早寝早起き朝ごはん運動普及啓発事業	市	子どもの基本的な生活習慣の定着を図るため、就学時健康診断等の機会を活用し、啓発チラシの配布・説明等を行う。					・生活リズムチェック事業(小・中学校)を実施 ・食育フェスタ、学校給食展での啓発コーナーの設置 ・家庭教育応援講座や就学時健康診断での啓発活動	朝ごはんを食べている子どもの割合(全国学力・学習状況調査 香川県公立小学校6年生)	85.10%	84.00%	B	無	朝ごはんを食べている子どもの割合(全国学力・学習状況調査 香川県公立小学校6年生)については、R3年度の達成率を0.9%下回った。 生活リズムチェックシートの調査結果においても、すべての項目において達成率が低下し、全体でも前年度に比べ達成率がやや低かった。 今後も、生活リズムチェックシートを配布し、自分自身の生活態度を見直す機会を与える。また、学校給食展等の機会を利用して啓発活動を行っていく。	生涯学習課	
34	V	2	(1)	こどもスマイルテレホン事業	市	家庭問題・不登校・非行やいじめ等、子どもに関する悩みの相談窓口として「こどもスマイルテレホン」を開設する。					24件	相談件数	39件	24件	C	無	それぞれの悩みについて、相談窓口としての対応ができた。 今後も小中学校への「こどもスマイルテレホンカード」の配布など、事業の周知を継続していく必要がある。	少年育成センター	

高松市生涯学習事業推進状況一覧表

No	施策体系 (別紙1) 参照				事業名	実施主体	事業概要	重点項目 (別紙2) 参照				R4年度事業内容 (実績)	評価指標				成果と 今後の課題	課名	
								ア	イ	ウ	エ		指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	評価			※新型コロナ ウイルス感 染症の影響
35	V	2	(1)	ブックスタート事業	市	4か月児相談の機会を活用し、絵本バックの贈呈とボランティアの協力による読み聞かせを行い、その利用方法と効用を説明し、楽しい子育て、読書への動機付けを図る。					4か月児相談時に、絵本バックを贈呈した。また、4か月児相談に参加していない世帯には、保健師が家庭訪問時に絵本バックを贈呈し、計2,689名に絵本バックを贈呈した。なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年2月以降は読み聞かせを中断している。	絵本バックの交付率	92.97%	94.25%	A	有	転出者等もあることから、交付率を100%にすることは困難であるが、交付対象者の9割以上に絵本バックを贈呈できている。現在、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で読み聞かせを中止しているが、状況を判断して再開を検討する。	中央図書館	
36	V	2	(1)	「いじめや不登校に関する相談電話」事業	市	いじめ問題や不登校へ適切に対応するため、いじめや不登校に関する相談電話を設置し、児童・生徒、保護者等からの相談に対応する。					R4年度からはいじめ案件はもとより、不登校案件についても相談を受け付けており、相談件数は大幅に増加した。	電話相談 窓口相談	25件	66件	A	無	本人や保護者の悩みや不安に寄り添うだけでなく、学校やスクールカウンセラーに繋ぐことができた。全国的にも不登校児童生徒は増加しており、今後も相談の質を向上させていきたい。	総合教育センター	
37	V	2	(1)	不登校等に関するカウンセラーによる教育相談事業	市(委託、直営)	教育支援センターの児童生徒をはじめ、不登校および不登校傾向の児童生徒やその保護者に対して、継続的な相談活動を行う。				常時、カウンセラーを2名配置し、教育相談事業に取り組んでいる。教育支援センターの親の会(年8回)や通室支援検討会にもアドバイザーとして参加してもらっている。	教育相談実施回数	120件	184件	A	無	不登校の児童生徒を持つ保護者が相談しやすい環境づくりができていない。相談件数の大幅な増加傾向がみられるので、今後も連携を強化していく必要がある。	総合教育センター		
I	2	(3)																	
38	V	2	(2)	子どもを中心とした地域交流事業	市	地域で活動する各種団体等が協働することにより、団体の持ち味やネットワークを活かしながら、子ども及び保護者並びに地域の大人が関わる継続的な事業を実施することで、地域の住人が顔見知りになるほか、地域の一体感を醸成するとともに、地域ぐるみで子どもを育む機運を高める。					【新規2団体】 ①川東(カブトムシの育成、そらめん流し、将棋教室) ②浅野(学習活動、地域探検、さつまいもの植付・収穫) 【継続5団体】 ③花園(農業体験、餅つき大会等)一部中止 ④新塩屋町(宿題指導、クイズ等)一部中止 ⑤古高松(田植え、農業体験等)一部中止 ⑥高松第一(フットベースボール、新春子どもフェスティバル/競技練習、夏祭り等)※一部中止 ⑦二番丁(和太鼓教室、餅つき大会等)一部中止	実施団体数	・新規1校区 ・継続5校区 (うち中止1)	・新規2校区 ・継続5校区	A	有	新型コロナウイルス感染症の影響により、すべてのイベントを予定通りに行うことができた団体は少なかったものの、活動自体が中止となった団体はなかった。新規団体の応募・実施が今後の課題である。引き続き、多くの団体に利用していただけるよう周知・啓発に努めていく。	生涯学習課	

高松市生涯学習事業推進状況一覧表

No	施策体系 (別紙1) 参照			事業名	実施主体	事業概要	重点項目 (別紙2) 参照				R4年度事業内容 (実績)	評価指標				成果と 今後の課題	課名	
							ア	イ	ウ	エ		指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	評価			※新型コロナ ウイルス感染 症の影響
39	V	2	(2)	地域コミュニティ人材養成事業	市	まちづくり活動の中核を担う地域のリーダー養成を目的とした人材養成事業を実施する。	○				地域コミュニティの人材育成を目的に、役職別研修やSNS活用のための研修など13回の研修を実施した。	研修会の参加人数	-	560人	A	無	R4年度実施した研修のアンケート等を参考に今年度も引き続き実施する。	コミュニティ推進課
	VI	1	(2)															
40	VI	1	(1)	男女共同参画センター学習	NPO法人たかまつ男女共同参画ネット(委託)	高松市男女共同参画センターにおいて、男女共同参画に関する各種セミナー・講座を開催する。	○				高松市男女共同参画センターにおいて、男女共同参画に関する各種セミナー・講座を開催した。 ○学習研修事業等(全54回) ・だれもがいきいきまちづくり講座(5回) ・女性のための就労支援講座(8回)など	学習研修事業の参加者数	1,064人	1,503人	A	無	新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めながら、講座の実施回数を増やした結果、参加者増加につながった。今後も、参加者増加を図るために魅力ある講座の実施を検討していく。	男女共同参画・協働推進課
41	VI	1	(1)	男女共同参画週間事業	市	男女共同参画週間に合わせ、男女共同参画の啓発のためのパネル展、弁護士による法律講座・相談等を実施する。	○				男女共同参画週間に合わせ、男女共同参画の推進にかかる講座等を行った。 男女共同参画啓発事業(6/23~6/29) ・女性弁護士による講座・相談 ・パネル展 ・啓発グッズの配布	男女共同参画週間中の参加者数	766人	731人	B	無	新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めながら、パネル展、弁護士による法律講座・相談等を実施した。参加者数は減少する結果となったが、参加者に対して実施したアンケートでは、「とてもよかった」「よかった」と回答する割合が76.1%から79.2%へ上昇し、概ね好評であった。今後も参加者増加を図るために魅力ある内容を検討し取り組む必要がある。	男女共同参画・協働推進課
42	VI	1	(1)	男女共同参画市民フェスティバル	男女共同参画市民フェスティバル実行委員会(補助)	高松市男女共同参画センター登録団体が中心となり、講演会の開催・パネル展・ワークショップ等を開催する。	○				高松市男女共同参画センター登録団体が中心となり、講演会・パネル展・ワークショップ等を開催した。 (11/19~12/4)	男女共同参画市民フェスティバルの参加者数(講演会、パネル展、ワークショップ合計)	1,429人	1,632人	A	無	新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めながら、講演会・パネル展・ワークショップを実施し、参加者が増加につながった。今後も参加者増加を図るため、魅力ある講演会やパネル展の実施を検討していく。	男女共同参画・協働推進課

高松市生涯学習事業推進状況一覧表

No	施策体系 (別紙1) 参照				事業名	実施主体	事業概要	重点項目 (別紙2) 参照				R4年度事業内容 (実績)	評価指標				成果と 今後の課題	課名	
								ア	イ	ウ	エ		指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	評価			※新型コロナ ウイルス感染 症の影響
43	VI	1	(1)	市民活動センター情報発信事業	市	市民活動センターホームページ「ふらつと高松」において、NPO等団体の情報を収集・発信する。	○				ホームページ「ふらつと高松」、メールマガジン、フェイスブック及び機関誌「コラボたかまつ」等を活用し、情報発信を行うことができた。また、ケーブルテレビ「コミュニティチャンネル」に市民活動団体活動紹介チャンネルを設け、市民活動に取り組む市民自らが出演し、効果的な活動紹介を行うことができた。 このほか、NPO法人との連携強化のため、本市のみに事務所を置くNPO法人とのネットワークづくりをし、情報発信を行っている。	ホームページ登録団体数	102団体	94団体	B	有	NPO法人にメールでの情報発信を行い、連携強化が図れたものの、新型コロナウイルス感染症の影響による市民活動の停滞等に伴い、活動を中止した団体があった。引き続き、市民活動センター機能の一つである「情報収集・発信」に取り組む、市民活動団体の支援の充実を図る必要がある。	男女共同参画・協働推進課	
44	VI	1	(1)	地域コミュニティ協議会情報発信事業	市	地域コミュニティ協議会がホームページやSNSなどで発信する情報に素早くたどりつけるように、市ホームページに協議会の紹介ページを作成し、情報拠点として運用する。	○				地域の情報収集、発信、ネットワーク形成できる情報拠点	ポータルサイトへの掲載団体	44団体	44団体	A	無	R4年度末で「コミねっと高松」の運用は終了した。R5年度からは、市HP内に44協議会の紹介ページを作成し、引き続き情報拠点として運用する。	コミュニティ推進課	
45	VI	1	(1)	人権・同和問題啓発活動事業	市、コミュニティセンター、高松市人権啓発推進協議会(26年度以降、人権尊重都市たかまつ市民会議)	市民の人権意識の普及・高揚を図るため、啓発物品等の作成・配布及び人権フェスティバル、市民のつどい、ハンセン病を正しく理解する講演会等を開催する。	○	○			○人権啓発用パンフレット、啓発物品等の作成・配布 ○人権フェスティバルの開催 年1回 ○スマイルフェスティバルの開催 年1回 ○ハンセン病を正しく理解するパネル・作品展 ○ハンセン病を正しく理解する講演会の開催 年1回 ○人権の花運動 小学校6校配置	人権フェスティバル、平和と人権を守る市民のつどい(R1年度以降、スマイルフェスティバル)、ハンセン病を正しく理解する講演会参加者数	○人権フェスティバル中止 ○スマイルフェスティバル 254名 ○ハンセン病を正しく理解する講演会 85人、パネル・作品展 732人	○人権フェスティバル 500名 ○スマイルフェスティバル 234名 ○ハンセン病を正しく理解する講演会 221人、パネル・作品展 621人	A	有	令和4年度は、一部の事業について、新型コロナウイルス感染症対策として、開催方法等を変更し実施した。 令和5年度については、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みて、実施していく。	人権啓発課	
46	VI	1	(1)	地域における人権啓発推進事業	市、地域コミュニティ協議会	各地域コミュニティ協議会で選任された人権啓発推進員が、生涯学習推進員と協力して、地域の生涯学習における人権に関する講座の企画・運営及び広報活動を実施する。	○	○			○人権啓発推進員研修会の開催 年2回 ○地域の「生涯学習事業」の中で実施されている人権に関する講座の企画・運営及び広報活動参加者数 延べ1,006人	人権に関する講座等の参加人数	945人	1,006人	A	有	人権啓発推進員の工夫により様々な形態での啓発事業を実施し、広く市民の人権意識の普及・高揚に努めているが、令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う地域のイベント等が開催できなかったこともあるが、参加人数は増加した。今後も啓発活動を継続し、参加者の増加に努める。	人権啓発課	

高松市生涯学習事業推進状況一覧表

No	施策体系 (別紙1) 参照				事業名	実施主体	事業概要	重点項目 (別紙2) 参照				R4年度事業内容 (実績)	評価指標				成果と 今後の課題	課名	
								ア	イ	ウ	エ		指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	評価			※新型コロナ ウイルス感 染症の影響
47	VI	1	(1)	人権・同和問題指導者養成事業	市	人権を尊重する明るい職場づくりや人権に配慮したやさしい企業づくりを推進するため、市内の事業所の代表者や人権啓発等を担当する職員を対象に、指導者研修講座を開催する。	○	○			○人権・同和問題啓発講座の開催 年1回	人権、同和問題指導者研修講座参加者数	参加企業471社 1075回	参加企業463社 630回	B	有	令和4年度は、新型コロナウイルス感染症対策として、開催方法を変更し実施したが、参加者数は減少した。 令和5年度は、多様な媒体での事業の周知、事業内容の充実や多数の参加者が望める場所での啓発事業を実施していく。	人権啓発課	
48	VI	1	(1)	平和啓発推進事業	市	平和意識の啓発・普及のため、平和を語るつどい・映画祭、空襲写真展、戦争遺品展、講演会等を開催する。	○	○			○平和を語るつどい・憲法記念平和映画祭(5月14日)、高松空襲展(6月25日~7月4日)、高松市戦争遺品展(7月12日~18日)、原爆パネル展(8月4日~10日)、収蔵品巡回展(11月18日~19日)、小中学校での平和講演会(10月24日、1月20日)、教職員のための平和教育講演会(8月1日) ○平和記念だよりの発行(4回)	平和記念館(仮称)入館者数、平和意識の啓発事業参加者数	平和記念館入館者数 9,529人、 平和意識の啓発事業参加者数 4,983人	平和記念館入館者数 13,525人、 平和意識の啓発事業参加者数 6,131人	A	有	新型コロナウイルス感染症による影響はあったものの、令和3年度に比べると増加している。 今後においても、多様な媒体での事業の周知、事業内容の充実や多数の参加者が望める場所での啓発事業を実施していく。	人権啓発課	
49	VI	1	(1)	防災講演会	市	防災士を始め、各地で地域防災に関心のある市民を対象に、地域防災に取り組むために必要な内容について、学識経験者等を講師に招き、防災講演会を開催する。				○	防災士を始め、各地で地域防災に関心のある市民を対象に、地域防災に取り組むために必要な内容について、学識経験者等を講師に招き、防災講演会を開催した。	参加者数	会場 46人 リモート21人 合計 67人	会場 40人 リモート 16人 合計 56人	B	有	新型コロナウイルスの感染状況を考慮し、受講者は会場又はリモート視聴の選択制として実施した。昨年度に比べて参加人数が若干減少した。リモート視聴のアンケート回収率を高めるため、アンケート実施方法について検討が必要である。また、参加人数の増加に向けて広報活動を行っていく。	危機管理課	
50	VI	1	(1)	市政出前ふれあいトーク事業	市	市政の仕組みや取り組んでいる施策・事業、今後の検討課題等について、設定テーマに応じて、職員が地域へ出向き、説明及び情報提供・意見交換を行う。	○				テーマ数：146 実施件数：215件 参加人数：6359人	市政出前ふれあいトークの実施回数	130回	215回	A	有	新型コロナウイルス感染症対策を十分おこなった上で実施した。コロナ蔓延前ほど利用者が回復しなかった。今後についても、新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、十分に感染対策を講じた上で適宜実施する。	広報課	
51	VI	1	(1)	広報高松による情報提供	市	生涯学習情報を始め、各種の市政情報を発信するため、毎月1日「広報高松」を発行する。	○				「広報高松」を月1回(1日)発行し、生涯学習に関するイベント情報や募集情報を周知した。	-	-		評価不可	無	「広報高松」を月1回(1日)発行し、生涯学習に関する講座やイベントを適宜掲載した。	広報課	

高松市生涯学習事業推進状況一覧表

No	施策体系 (別紙1) 参照				事業名	実施主体	事業概要	重点項目 (別紙2) 参照				R4年度事業内容 (実績)	評価指標				※新型コロナウィルス感染症の影響	成果と今後の課題	課名
								ア	イ	ウ	エ		指標名	令和3年度実績	令和4年度実績	評価			
52	VI	1	(1)	市ホームページによる情報提供	市	生涯学習情報を始め、各種の市政情報を発信するため、市ホームページ「もっと高松」の管理・運営を行う。	○				生涯学習に関するイベント情報や募集情報を市民に対して周知した。また、SNSとホームページを連携させ情報が幅広く周知できるようにも取り組んだ。	-	-		評価不可	無	市ホームページ「もっと高松」で、生涯学習に関する講座やイベント情報を適宜発信した。	広聴広報課	
53	VI	1	(1)	認知症サポーター養成講座	市	認知症高齢者等に対する正しい知識を持ち、地域で認知症高齢者等や家族を支援するサポーターを養成し、安心して暮らせる地域づくりの担い手を増やす。	○				①地域で認知症高齢者等の生活を支える取組として、地域住民・学校・企業等を対象に認知症サポーター養成講座を開催し、認知症についての正しい理解・知識の普及を行った。また4年度は、市内の高等学校の校長会や地域の保健委員会など、認知症サポーター養成講座開催の周知を行うなど新規開拓にむけて取り組んだ。 ②認知症サポーター養成講座受講生のうち、認知症ボランティアとして活動したい方を対象に、認知症ステップアップ講座を開催し、認知症カフェなどでボランティアとして活動できるように支援した。	認知症サポーター数	認知症サポーター養成人数2,006人	認知症サポーター養成人数1,979人	B	有	令和3年と同様新型コロナウイルス感染症の影響を受け、実績としては、令和3年度より微減となった。国においても認知症サポーター数の増加を謳っており、引き続き開催等に向けて呼びかけていく必要がある。	地域包括支援センター	
54	VI	1	(1)	かがわ国際フェスタ	市	市民の国際交流・国際協力・多文化共生に対する理解の増進と国際感覚の醸成を図るとともに、国際交流・国際協力の担い手である団体や関係機関相互の連携強化のため「かがわ国際フェスタ」を開催する。	○				(公財)香川県国際交流協会等との共催で、令和4年10月9日～11月8日に「かがわ国際フェスタ2022」を開催した。約7,800人が参加し、国際交流への理解を深めることができた。	「かがわ国際フェスタ」参加者数	7,300人	7,800人	A	有	多くの市民が国際交流への理解を深めることができた。今後もイベントの開催を通して、国際交流・国際協力に携わる団体相互の連携強化や、市民の国際交流・協力活動への参加・理解を促進していく。	都市交流室	
55	VI	1	(1)	瀬戸内国際芸術祭推進事業	瀬戸内国際芸術祭実行委員会(補助)	文化芸術の振興と瀬戸内の活性化・地域振興、世界への情報発信のため、3年毎に国際的な芸術祭として「瀬戸内国際芸術祭」を開催する。	○				瀬戸内国際芸術祭2022 ・女木島 来場者数合計:44,553人(春14,877、夏12,633、秋17,043) ・男木島 来場者数合計:40,228人(春12,700、夏11,344、秋16,184) ・大島 来場者数合計:6,517人(春2,143、夏1,557、秋2,817) ・高松港 来場者数合計:62,131人(春21,529、夏18,618、秋21,984)	来場者数	123人	153,429人	A	有	会場となる島等の地域住民の理解を得た上で、新型コロナウイルス感染症対策を講じて芸術祭を開催することができた。入国制限や行動制限等の影響で、前回の芸術祭(2019年)と比較して、6割程度に留まったものの、多くの来場者があり、クラスター等の問題も発生しなかった。今後も地域住民の意見を十分に聞きながら、ART SETOUCHI及び次回芸術祭準備を進めていく必要がある。	文化芸術振興課	

高松市生涯学習事業推進状況一覧表

No	施策体系 (別紙1) 参照				事業名	実施主体	事業概要	重点項目 (別紙2) 参照				R4年度事業内容 (実績)	評価指標				成果と 今後の課題	課名	
								ア	イ	ウ	エ		指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	評価			※新型コロナ ウイルス感染症 の影響
56	VI	1	(1)	市民文化祭	高松市市民文化祭アーツフェスタかまつ事業運営委員会(補助)	市民企画提案型事業「アーツフェスタかまつ」の開催を支援する。	○				開催団体：19団体 鑑賞者数：5,659人	アーツフェスタ鑑賞者数	4,391人	5,659人	A	有	令和4年度は、改修工事のためサポートホール高松以外の市内公共施設での開催となり、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため会場定員の制限などの影響があったが、令和4年度より鑑賞者数が増加した。 令和5年度は、令和4年度に引き続き、改修工事のためサポートホール高松以外の市内公共施設での開催となるが、広報活動を積極的に行い、鑑賞者数の増加に努める。	文化芸術振興課	
57	VI	1	(1)	デリバリーアーツ事業	公益財団法人高松市文化芸術財団(委託)	普段の生活の中で身近に気軽に文化芸術に親しむ機会づくりとして、市民の希望により出前公演を実施する。	○				開催回数：全14回(内東かがわ市3回、さぬき市1回、綾川町2回、土庄町1回) 鑑賞者数：1,956人(内市外開催地647人)	デリバリーアーツ鑑賞者数	488人	1,956人	A	有	令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により一部公演を中止(みんなの病院)、かつ各公演の来場者数を施設収容人数を上限として実施したが鑑賞者数についてはコロナ禍以前に近い水準まで戻すことができた。 今後は、引き続き老若男女を問わない幅広い世代が鑑賞できるようなメニュー選定と、申込み団体及び鑑賞者の増加に努める必要がある。	文化芸術振興課	
58	VI	1	(1)	文化芸術ホール自主事業	公益財団法人高松市文化芸術財団(補助)	文化芸術ホールにおいて、文化芸術の振興・普及のため、コンサート等各種事業を開催する。	○				開催回数：全8事業。うち1事業は中止。	自主事業鑑賞者数	3,118人	5,880人	A	有	改修工事のため一部を除き施設を使用できないことからアウトリーチに注力し、新型コロナウイルス感染拡大防止を図りながら事業を実施することができ、来場者数が、コロナ禍以前程ではないが、令和3年度からは大幅に増加した。 令和5年度は、令和4年度に引き続き、改修工事のためアウトリーチ主体となるが、令和6年度の再オープンに向け、利用者・鑑賞者の維持と新規獲得のため、ホールのPRに努めながら事業を実施していく必要がある。	文化芸術振興課	

高松市生涯学習事業推進状況一覧表

No	施策体系 (別紙1) 参照				事業名	実施主体	事業概要	重点項目 (別紙2) 参照				R4年度事業内容 (実績)	評価指標				成果と 今後の課題	課名	
								ア	イ	ウ	エ		指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	評価			※新型コロナ ウイルス感染 症の影響
59	VI	1	(1)	スポーツ教室	公益財団法人高松市スポーツ協会	市民の健康増進と体力向上を図るため、各スポーツ施設の特徴を活かした各種スポーツ教室を開催する。	○				110教室 37, 871人	実施施設及び実施教室数	14施設 106教室	15施設 110教室	A	有	令和4年度は、予定していた教室を中止せず募集したが、感染症リスクを考慮して引き続き参加を見合わせる人や申し込み後に感染してキャンセルする人があった。令和2年度以前よりも大幅に参加者が減少したり、申し込みが少なくやむを得ず中止になった教室もあり、新型コロナウイルスの影響が若干あった。 令和5年度については、必要な感染症対策を講じながら、実績を踏まえて内容や定員についても見直しを行い、教室を実施する予定。	スポーツ振興課	
60	VI	1	(1)	市民登山学校	市民登山学校	健康維持、自然保護の啓発、登山知識・技術を習熟するため、講座・実技を開催する。	○				延べ参加者数7月～3月 実技330人 講座584人	参加人数	生徒数 71名 毎月講座1回 実技1回	生徒数 95名 毎月講座1回 実技1回	A	有	新型コロナウイルス感染症の感染対策として、バスの定員を制限する等対策を講じて事業を実施した。前年より参加者の増加に繋がった。 また、指導者の高齢化が進んでいるため、新たな指導者の養成が課題である。	スポーツ振興課	
61	VI	1	(1)	学校体育施設開放事業	市	市内全小学校体育施設（自主管理方式）と中学校は指定校方式で、学校体育施設の開放を行う。	○				市民の体力づくりや健康増進を始め、余暇の利用にも寄与する、身近で有益なスポーツ施設としての学校体育施設について、学校教育活動に留意する中で開放を行う。	中学校開放数	16校	16校	A	有	令和4年度は、コロナ禍以前の利用者数には戻っていないが、前年度より増加し、概ね事業を実施することができた。 課題としては、毎年施設修繕が必要な箇所を改修しているものの、予算等の問題で対応できない部分もあるため、必要性を十分検討し、計画的な実施をしていきたい。	スポーツ振興課	
62	VI	1	(1)	二十歳のつどい開催事業	市	二十歳の方を対象に、大人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年を祝い励ますための式典を開催する。	○				場所：レクザムホール ※サンポートホール改修工事の都合により、レクザムホールにて実施。 日時：R5. 1. 8 (1部開催) 対象者数：4, 502人 出席者数：2, 664人	出席率	54.0%	59.2%	A	有	新型コロナウイルス感染症の影響はあったが、出席率は昨年度を上回った。 令和5年度は場所を移しての開催も2年目となるので、人員配置や入退場時の動線を改善し、よりスムーズな人の流れを作ることが課題となる。	生涯学習課	
63	VI	1	(1)	PTA地域活動促進事業	市	地域ぐるみ、市民ぐるみの子どもの健全育成を促進するために高松市PTA連絡協議会への活動を支援する。	○					(評価不可)	(評価不可)	(評価不可)	評価不可	無		生涯学習課	



高松市生涯学習事業推進状況一覧表

No	施策体系 (別紙1) 参照				事業名	実施主体	事業概要	重点項目 (別紙2) 参照				R4年度事業内容 (実績)	評価指標				成果と 今後の課題	課名	
								ア	イ	ウ	エ		指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	評価			※新型コロナ ウイルス感染症の影響
64	VI	1	(1)	青年活動推進事業	市	青年活動の振興を目指し自主的に活動する市青年連絡協議会への助成と、青年教育振興のため協議会へ参画する。					市青年連絡協議会への運営支援として補助金を交付。 協議会等の会合は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため書面にて開催。	会員数	10人	10人	A	無	会員数は前年度から変化なし。 新型コロナウイルス感染症の影響で多くの行事が中止になったが、新春子どもフェスティバルへの出店など、徐々に実施できる行事も増えてきた。令和5年度は実施行事の充実、会員数増加に向けた方策を検討する必要がある。	生涯学習課	
65	VI	1	(1)	子ども向けホームページ「きっずの森」情報発信事業	市	市内で開催される子ども向け行事や子どもの学習に関する情報を、子ども向けホームページ「きっずの森」にて発信する。					市内で開催される子ども向け行事や子どもの学習に関する情報を、子ども向けホームページ「きっずの森」にて発信する。 アクセス数を伸ばすために、令和4年度早寝早起き朝ごはん運動普及啓発事業の啓発チラシにQRコードを掲載するとともに、ミライエや子育て支援課にチラシの設置を依頼した。	掲載内容の充実、年間アクセス件数	101,982件	101,617件	B	無	早寝早起き朝ごはん啓発チラシにQRコードを掲載するなど、アクセス数増加に向けた取組を行ったが、概ね前年度と同程度の実績となった。 引き続き、広報高松や市のSNS等において、きっずの森について周知していく必要がある。	生涯学習課	
66	VI	1	(1)	生涯学習カレッジ事業	市	社会変化に対応した生活課題や環境問題など現代的課題をテーマにした講座や、高度で専門的な学習機会を提供する。					社会変化に対応した生活課題や環境問題など現代的課題をテーマにした各種講座を開催した。	生涯学習センター開催講座参加人数	3,762人	4,445人	A	有	新型コロナウイルス感染症の影響があったが、昨年度より多くの講座を開催したことから、参加者数が増加した。今後も、社会情勢に応じた市民のニーズに応じた講座の開催を検討する。	生涯学習センター	
67	VI	1	(1)	コミュニティセンター同好会事業	市	コミュニティセンター等において承認を得た同好会に対して、定期利用の許可・利用料金の減免を行う。					コミュニティセンター等において承認を得た同好会に対して、定期利用の許可・利用料金の減免を実施した。	同好会登録団体数	1,090団体	1,043団体	B	有	前年度とほぼ同数の同好会登録団体数であった。今後も、引き続き同好会に対する減免制度を実施し、地域における更なる生涯学習の推進に努める。	生涯学習センター	
68	VI	1	(1)	コミュニティセンターだよりの発行(生涯学習関連)	コミュニティ協議会	各コミュニティセンターで発行している「コミュニティセンターだより」において、コミュニティセンター等で開催する講座・行事等の学習情報のほか、地域の学校関係情報など多彩な情報を紹介する。					各コミュニティセンターで発行している「コミュニティセンターだより」において、コミュニティセンター等で開催する講座・行事等の学習情報のほか、地域の学校関係情報など多彩な情報を紹介した。	発行施設数	52施設	52施設	A	無	前年度と同数の施設において「コミュニティセンターだより」で多彩な情報を紹介できた。今後も、引き続き「コミュニティセンターだより」で地域における生涯学習に係る情報の提供に努める。	生涯学習センター	
69	VI	1	(1)	まなびCANだより「まなびかんづめ」の発行	市	生涯学習センターで開催される講座等の学習情報を紹介する情報紙「まなびかんづめ」を毎月発行する。					生涯学習センターで開催される講座等の学習情報を紹介する情報紙「まなびかんづめ」を毎月発行した。	「まなびかんづめ」配布箇所数	39ヶ所	39ヶ所	A	無	前年度と同様、39ヶ所に「まなびかんづめ」を配布できた。今後も、引き続き新たな配布先の開拓を検討する。	生涯学習センター	

高松市生涯学習事業推進状況一覧表

No	施策体系 (別紙1) 参照				事業名	実施主体	事業概要	重点項目 (別紙2) 参照				R4年度事業内容 (実績)	評価指標				成果と 今後の課題	課名	
								ア	イ	ウ	エ		指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	評価			※新型コロナ ウイルス感染症 の影響
70	VI	1	(1)	まなびCANホームページ情報発信事業	市	まなびCANのホームページで講座の募集情報・施設情報・お知らせ・インターネット塾など各種生涯学習情報を発信する。	○				まなびCANのホームページで講座の募集情報・施設情報など各種生涯学習情報を発信した。	HPアクセス件数	174,384件	193,356件	A	無	前年度を上回るアクセスがあった。今後も、引き続きホームページで市民にとって興味を持ってもらえる各種生涯学習情報等の発信に努める。	生涯学習センター	
71	VI	1	(1)	コミュニティセンター等パソコン講習会	市	生涯学習センターやコミュニティセンター等でパソコン講習会を開催し、情報通信の知識や技術・マナー等、情報活用能力の向上、新しい情報メディアの活用を推進する。			○		生涯学習センターやコミュニティセンター等でパソコンやスマホ、タブレットなどに関する講習会を開催し、情報通信の知識や技術・マナー等、情報活用能力の向上、新しい情報メディアの活用を推進する講座を開催した。	IT講座開催回数(講座数)	186回	256回	A	有	コミュニティセンターにおいてスマートフォンの使い方講座を積極的に行ったことから増加した。スマートフォンの操作については、機種の変更が行われることから、機種更新に合わせた講座の開催を検討する。	生涯学習センター	
72	VI	1	(1)	まなびCAN、Eメールサービス	市	広報たかまつの発行に併せて、希望者のパソコン・携帯電話にEメールにより、生涯学習センター講座情報等を配信する。	○				広報たかまつの発行に併せて、希望者のパソコン・携帯電話にEメールにより、生涯学習センター講座情報等を配信した。	まなびCAN、Eメールサービス登録者数	267人	282人	A	無	登録者数は前年度を上回った。今後、全市民的な講座情報の発信について検討する。	生涯学習センター	
73	VI	1	(1)	人権教育市民講座	市	コミュニティセンターで、地域住民を対象に、啓発資料や視聴覚教材を活用した人権教育市民講座を開催する。			○		延べ52コミュニティセンターで開催し、延べ551人の参加があった。	参加者数	345人	551人	A	有	限られた経費で市民に対し人権問題を考える機会を継続的に提供している。人権教育市民講座が各団体において毎年開催されるよう、引き続きホームページや他の情報媒体を利用して、情報提供や啓発を行っていく必要がある。	人権教育課	
74	VI	1	(1)	スマイルフェスティバルinたかまつ	市、人権尊重都市たかまつ市民会議(共催)	人権意識の普及・高揚を図るため、人権をテーマとした公演やパネル展、幼児・児童生徒・保護者・企業等によるステージ発表などを内容とするイベントを開催する。	○				令和5年1月22日に香川県教育会館ミューズホールで開催された。ステージイベントでは、歌や踊り、ペープサート劇、人権作文の朗読、ミュージックベル、人形劇が披露され、人権意識の普及・高揚を図った。	参加者数	254人	234人	B	有	令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を施しながら実施した。来年度以降、開催場所やイベントのあり方の検討に加え、内容の改善も検討する必要がある。	人権教育課	
75	VI	1	(1)	人権教育研修事業	市	様々な人権問題の解決を図るため、幼稚園・こども園・小中学校・高松一高ごとにPTA等を対象とした人権・同和教育に関する講演会等を開催し、地域・保護者の人権意識の高揚を図る。			○		9市立こども園、18市立幼稚園、37小学校、18中学校、1高等学校で開催し、延べ15,499人の参加があった。	参加者数	11,446人	15,499人	A	有	全ての市立こども園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校でPTA、保護者等を対象とした講演会等を開催している。子どもに対する人権教育をより効果あるものとするため、今後も事業の継続が必要である。	人権教育課	

高松市生涯学習事業推進状況一覧表

No	施策体系 (別紙1) 参照				事業名	実施主体	事業概要	重点項目 (別紙2) 参照				R4年度事業内容 (実績)	評価指標				成果と 今後の課題	課名	
								ア	イ	ウ	エ		指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	評価			※新型コロナ ウイルス感染症 の影響
76	VI	1	(1)	幼年・少年消防クラブの育成	幼少、少年消防クラブ連絡協議会(補助)	幼少年期から防災意識を高め、地域の安全・安心の担い手として育成するため、保育所・幼稚園・小中学校に幼年少年消防クラブの結成を推進する。				○	・住宅防火防災シンポジウムへの参加 ・リーダー研修会 ・優良クラブ表彰 ・消防出初式への参加	消防クラブ結成数	幼年消防クラブ 52クラブ 少年消防クラブ 19クラブ (園の統合により減少)	幼年消防クラブ 52クラブ 少年消防クラブ 19クラブ	A	無	結成数は維持できた。また、各行事内容を更新・充実させたことで、効果的な防災教育ができた。今後も、クラブ数の維持・増加を目指す。	予防課	
77	VI	1	(1)	菊池寛及びその作品から学ぶ「寛学」事業	市	郷土の偉大な作家「菊池寛」の作品に親しみ、先人の生き方に学ぶとともに、自己の生き方を考える「寛学」を実施する。	○	○			全小・中学校において、読書活動や道徳科、学級活動の時間等、学校の実態に応じて機会を設け実施した。	市内全小中学校で実施	小学校 全47校 中学校 全22校 100%	小学校 全47校 中学校 全22校 100%	A	有	菊池寛の生き方に触れるとともに、その作品を読み親しむ活動を通して、自己の生き方を考え、自らの夢を描き、高い志をもつ機会となった。	学校教育課	
	I	2	(8)																
78	VI	1	(1)	知的障がい者青年教室	市	知的障がいのある青年が、集団活動を通して、人とふれあい社会人としての知識・技能を修得するとともに、市民ボランティアが知的障がい者への理解を深める機会として教室を開設する。	○				年間8回(6、7、9、10、11、12、1、2月)実施。 「登録者数」 ●受講生：35人 ●ボランティア：60人	利用者の満足度	受講生：93.3% ボランティア：92.2%	受講生：92.5% ボランティア：82.2%	B	有	令和4年度は、新型コロナウイルス感染症対策として、定員縮小・時間短縮の方法で実施した。利用者の満足度は少し減少してしまっただが、令和5年度は、時間を延長して実施するなど、活動の充実を図り、満足度の向上を目指す。	生涯学習課	
	VI	1	(2)																
79	VI	1	(1)	コミュニティセンター講座	市、コミュニティセンター	コミュニティセンター等で、現代的課題をテーマとする講座や、親子ふれあい学習、趣味・実技講座等を開催し、地域住民に学習機会を提供する。	○				コミュニティセンター等で、現代的課題をテーマとする講座や、親子ふれあい学習、趣味・実技講座等を開催し、地域住民に学習機会を提供した。	参加者数	50,977人	68,283人	A	有	新型コロナウイルス感染症の影響があったが、昨年度より多くの講座を開催したことから、参加者数が増加した。今後とも、各地域のニーズに応じた学習機会を提供できるよう、各コミュニティセンターと情報共有を行う。	生涯学習センター	
	VI	2	(1)																
80	VI	1	(1)	まなびCAN・CSR教室	市	CSR(企業の社会的責任)という考えに基づき、生涯学習センターで、地元企業や個人事業者が生涯学習の観点から社会貢献を進める講座等を開催する。	○				CSR(企業の社会的責任)という考えに基づき、生涯学習センターで、地元企業や個人事業者が生涯学習の観点から社会貢献を進める講座等を開催した。	企業による社会貢献(CSR)講座の参加者数	286人	450人	A	有	新型コロナウイルス感染症の影響があったが、昨年度より多くの講座を開催したことから、参加者数が増加した。今後とも、企業や個人事業者が生涯学習における企業等の社会貢献を進める場として、講座を開催する。	生涯学習センター	
81	VI	1	(1)	他団体との連携事業	市	国・県等の講師派遣制度の活用をはじめ、公的機関・庁内各課、コミュニティセンター等と連携した講座を開催する。	○				国・県等の講師派遣制度の活用をはじめ、公的機関・庁内各課、コミュニティセンター等と連携した講座を開催した。	連携事業による講座の参加人数	576人	576人	A	有	新型コロナウイルス感染症の影響があったが、昨年度と同数の参加者数があった。今後も、公的機関等との連携を密にし、幅広く各種の講座の開催を検討する。	生涯学習センター	
	VI	2	(1)																

高松市生涯学習事業推進状況一覧表

No	施策体系 (別紙1) 参照				事業名	実施主体	事業概要	重点項目 (別紙2) 参照				R4年度事業内容 (実績)	評価指標				成果と 今後の課題	課名	
								ア	イ	ウ	エ		指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	評価			※新型コロナ ウイルス感染症の影響
82	VI	1	(1)	自主学習スペース事業	市	学生や若者などの学習や居場所の確保の支援策として、貸室を夜間に自主学習スペースとして開放することにより、多様な学習ニーズに対応できる環境を整え、生涯学習の推進に資する。				○	学生や若者などの学習や居場所の確保の支援策として、貸室を夜間に自主学習スペースとして開放した。	利用人数	令和4年度からの新規事業のため、実績なし	2,892人	評価不可	有	これまでに利用のなかった幅広い世代・属性で利用が増加した。今後は、R4に試行的に実施した夏休み等期間中の開放をR5から本格実施し、利用者増に努める。	生涯学習センター	
83	VI	1	(1)	高松市夜間教室事業	市	義務教育を修了しないまま学齢期を過ぎた者や不登校など様々な事情により十分な教育を受けられないまま中学校を卒業した者等を対象に、学びの場として高松市夜間教室を開室し、義務教育課程の内容について学習支援を行うことにより、市民の学び直しの機会の提供に資する。				○	開室回数：10回 受講生：全9名 学習内容：国語、数学（算数） 出席状況 ・10回（全て出席）：3人 ・9回：2人・8回：3人・1回：1人 満足度 ・大変満足：2人・概ね満足：5人 ・少し不満：2人	アンケート調査で満足していると回答した受講生の割合	令和4年度からの新規事業のため、実績なし	78%	評価不可	有	令和4年度を受講生からは概ね満足いただけたが、もっと回数が多いほうがいい、他の教科も勉強したいとの要望もあった。 令和5年度は、開室日数を増やし、数学（算数）、国語以外の教科にも柔軟に対応し、学び直しの場の更なる充実を図る予定。	生涯学習課	
84	VI	1	(2)	市民活動センター事業	市	市民活動センターにおいて、市民活動活性化のため、情報収集・提供、学習・研修、交流・コーディネート、調査・連携、災害時対応など各種事業を実施する。				○	・活動支援講座（会計・労務等）11回 80人 ・活動紹介講座（みどりを楽しむ教室等）26回 593人 ・高松市まちづくり学校（地域づくりチャレンジ塾）6回 161人 ・みんなの学縁祭 1回 65人 ・みんなでみんなの（和い輪いかい）2回 176人	センター来館者数	13,156人	13,622人	A	有	令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、中止した講座があったものの、前年度より利用者は増加した。 ・各種講座の実施（活動支援、活動紹介等）、NPO法人認証等事務に関する相談等を継続的に実施し、市民活動の活性化を図る必要がある。	男女共同参画・協働推進課	
85	VI	1	(2)	「ため池守り隊」市民活動支援事業	市民活動団体 (補助)	ため池の自然環境を守り育むため、市民の自主的かつ継続的なため池の自然環境に関する美化・保全活動に対し、補助金を交付する。				○	14か所	実施か所数	11か所	14か所	A	無	新型コロナウイルス感染症の影響により、活動を休止していた市民団体が活動再開したため、前年度より実施か所数が増え、ため池の自然環境の保全等に繋がった。 実施か所数をさらに増やすため、既存組織の継続と新規組織の参入を促進する。	土地改良課	

高松市生涯学習事業推進状況一覧表

No	施策体系 (別紙1) 参照				事業名	実施主体	事業概要	重点項目 (別紙2) 参照				R4年度事業内容 (実績)	評価指標				成果と 今後の課題	課名	
								ア	イ	ウ	エ		指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	評価			※新型コロナ ウイルス感染症 の影響
86	VI	1	(2)	観光ボランティアガイド事業	市観光ボランティアガイド協会(補助)	観光客等の利便を図るため、市内の歴史・文化・自然・物産などを紹介するボランティアガイドを育成し、ガイドを実施する。	○				・個々のガイドの自己研鑽と資質向上のため、全体研修(講演会参加、新人研修)を実施 ・全体研修とは別に部会研修(玉藻公園部会及び屋島山上部会)を現地にて数回実施	観光ボランティアガイド件数	714件	1,628件	A	有	バス研修については新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったが、講演会及び各部会研修会については通常どおり開催している。ガイド件数については、前年度比200%以上となっている。また、ガイドの高齢化が進んでいるため、若年層ガイドの育成に向け、地元の大学や短大等と連携を図ることなどが今後の課題である。	観光交流課	
87	VI	1	(2)	まちかど漫遊帖事業	高松まちかど漫遊帖実行委員会(補助)	歴史探訪・食・産業など高松の隠れた観光資源を発掘し、市民主体でまち歩き観光コンテンツを企画・運営する。まち歩きガイドを実施し、観光客の誘致を図り、まちの活性化につなげる。	○				例年どおり春編及び秋編の2種類のまち歩きパンフレットを作成し、各市民ツアープロデューサーによるまち歩きの催行を実施した。	まち歩き参加率	89%	93%	A	有	令和4年度全体の参加率は約9割まで回復した。大型観光イベント等も少しずつ再開されてきている一方、本事業のような少人数を対象とした観光コンテンツの需要が高まっていることが伺える。今後は、引き続き感染防止対策を徹底した上でツアー催行を行うとともに、内容のブラッシュアップを図ることにより、更なる参加率の向上を目指す。	観光交流課	
88	VI	1	(2)	たかまつこどもサミット	教育委員会・高松栗林ライオンズクラブ	高松市内の小学校児童(4校程度)が各校で調査・研究した結果をテーマに基づき発表し、また、各校からの発表について子どもたちや大人が共に考え、話し合うとともに、提言を行う。	○				開催日:令和5年2月18日(土) 場所:生涯学習センター テーマ:SDGs~私たちにできること~ 発表校・内容 ①林小 「未来につなぐ笑顔に満ちた世界~林っ子SDGs~」 ②仏生山小 「今、ここからできることから始めよう」 ③多肥小 「すべての人がしあわせを実現するために私たちにできること」 新型コロナウイルス感染症対策のため、参加児童や入場者を制限して開催した。	参加者数	-	約130人	評価不可	有	学校の負担軽減のため、多くの学校が取組を行っているSDGsをテーマに実施した。参加校の確保や限られた予算の中での実施、及び、学校負担軽減のため、実施方法や実施日時等の見直しも含めて検討する。	生涯学習課	
89	VI	1	(2)	学習成果発表の場事業	市	市民や市民グループの学びの成果を発表することで、さらなる学習意欲の向上を図り、生涯学習の輪を広げるための講座を開催する。	○				市民や市民グループの学びの成果を発表することで、さらなる学習意欲の向上を図り、生涯学習の輪を広げるための講座を開催した。	市民の学習成果発表の場としての講座開催回数(講座数)	11回	14回	A	有	新型コロナウイルス感染症の影響があったが、昨年度より開催回数が増加した。今後も、当該事業を市民等に広く周知し、新たな発表者を開拓する。	生涯学習センター	

高松市生涯学習事業推進状況一覧表

No	施策体系 (別紙1) 参照			事業名	実施主体	事業概要	重点項目 (別紙2) 参照				R4年度事業内容 (実績)	評価指標				成果と 今後の課題	課名	
							ア	イ	ウ	エ		指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	評価			※新型コロナ ウイルス感染 症の影響
90	VI	1	(2)	よみかかせたいJr派遣事業	市	子どもの自主的な読書活動や社会貢献への意義や重要性を養う機会として、老健施設等での「よみかかせたいJr」、「キッズ読み聞かせ隊」による読み聞かせ活動を実施する。	○				新型コロナウイルス感染症拡大の影響で多くのイベントが延期・中止になったなかで、「夏のおたのしみ会」「冬のお楽しみ会」等で計3回の読み聞かせ活動を行った。	派遣回数	3回	3回	B	有	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で図書館内のイベントが活動の中心となっている。このため、メンバー養成の場としての比重を重視した活動を行っているが、状況を判断して館外活動の再開を検討する。	中央図書館
91	VI	1	(2)	市民活動団体ネットワーク構築事業	市民活動団体等	各種市民活動団体や地域コミュニティ協議会等との交流会の開催など、団体同士のネットワーク構築を図る。	○				地域づくりチャレンジ塾最終報告会「みんなの学縁祭」 令和5年1月21日(土) 瓦町FLAG健康ステーション 参加者57人	交流会(意見交換会) 参加人数	43人	57人	A	無	令和4年度は、対面とオンラインを併用し、新型コロナウイルス感染症対策を講じて実施した。今後も高松市まちづくり学校実行委員会を中心に、市民活動団体、地域コミュニティ協議会関係者等、地域づくりに関わる多様な人たちの連携・交流の場として、「みんなの学縁祭」を開催するなど、団体同士のネットワーク構築を図る必要がある。	男女共同参画・協働推進課
	VI	1	(1)															
92	VI	2	(1)	コミュニティセンター整備事業	市	コミュニティセンターの改築について、①老朽化に伴う改築②長寿命化の観点に基づいた計画的な保全、この2点を柱とした中期整備指針等に基づき施設整備を行う。	○	○		○	【①屋島】 改築工事(完了)、外構工事(着手) 【②十河】 改築工事(完了)、外構工事(着手)	コミュニティセンター 中期整備指針等に基づく整備箇所	1施設(男木コミ)	2施設(屋島コミ、十河コミ)	A	無	中期整備指針等に基づき、計画的な整備を行い、地域のまちづくり拠点づくりに努めることができた。	地域振興課
93	VI	2	(1)	生涯学習推進員養成研修	市	コミュニティセンター職員などの生涯学習推進員を対象に、生涯学習に関する知識・技能の向上を図るための講座を開催する。	○				コミュニティセンター職員などの生涯学習推進員を対象に、生涯学習に関する知識・技能の向上を図るための各種講座を開催した。	生涯学習推進員数および参加者数	201人	391人	A	有	新型コロナウイルス感染症の影響があったが、昨年度より参加者数が増加した。今後も引き続き生涯学習推進員を対象とした各種講座を開催し、更なる知識・技能の向上につなげる。	生涯学習センター

高松市生涯学習事業推進状況一覧表

No	施策体系 (別紙1) 参照				事業名	実施主体	事業概要	重点項目 (別紙2) 参照				R4年度事業内容 (実績)	評価指標				成果と 今後の課題	課名	
								ア	イ	ウ	エ		指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	評価			※新型コロナ ウイルス感染 症の影響
94	VI	2	(1)	図書館等資料整備事業	市	図書館サービスの向上、機能強化等を図るため、各種資料(図書・雑誌・新聞・AV資料等)・情報の収集・提供を行う。 また、図書館に来館することなく、新しい生活様式に対応した形で読書を楽しむ電子図書館用の電子書籍も数を増やす。			○	○	図書館サービスの向上、機能強化等を図るため、各種資料(図書・雑誌・新聞・AV資料等)・情報の収集・提供を行う。 また、図書館に来館することなく、新しい生活様式に対応した形で読書を楽しむ電子図書館用の電子書籍も新たに約300タイトル購入した。	資料整備費	69,511,805円	63,139,703円	B	無	週1回行っている選書会議で、各館の利用状況に応じた選書を行ない、市民にとって魅力のある書架づくりを努めた。また、障がい者も利用できる大型活字本などアクセシブルな書籍や、電子書籍なども購入したが、今後利用促進のPR等に努めたい。	中央図書館	
95	VI	2	(1)	移動図書館事業	市	移動図書館車3台で、図書館の利用が困難な校外地域88ステーションを巡回し、図書等の貸出サービスを実施する。			○		新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐため、図書を選ぶ経路を一方通行にしたほか、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策として、車内の利用人数を少人数に制限して実施した。また貸出返却時の対応の距離を取り、消毒も徹底して行った。	図書等の貸出数	107,039冊	99,657冊	B	有	令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として3密防止や人数制限等を行ったが、貸出冊数は2年前よりは多かったものの対前年比約7%の減少であった。 令和5年度は新型コロナウイルスの位置付けが、5/8から5類感染症になることから感染症対策は軽減しながら実施する予定。	中央図書館	
96	VI	2	(1)	レファレンスサービス	市	図書館所蔵の資料等を調べ、利用者からの問合せ調査の回答や学習に必要な資料の紹介等を行う。				○	図書館所蔵の資料等を調べ、利用者からの問合せ調査の回答や学習に必要な資料の紹介等を行った。	図書館に問合せのあったレファレンス件数	12,268件	11,276件	B	無	コロナによるレファレンスの制限はかけなかったものの、件数は前年度を下回った。今後も市民の多様な質問や調査に対し、適切な対応ができるようレファレンスの強化に努めるとともに、利用促進のためのPRに努めたい。	中央図書館	
97	VI	2	(1)	図書のインターネット予約サービス	市	図書館利用者カードの所有者を対象に、図書館ホームページからインターネット蔵書予約等を行う。				○	図書館利用者カードの所有者を対象に、図書館ホームページからインターネット蔵書予約等を行った。仏生山交流センターとまなび館において、新しく予約図書の取次サービスを開始した。	インターネットでの蔵書図書等の予約件数	300,564件	289,050件	B	無	コロナによる予約取次の制限はかけなかったものの、前年度実績は下回った。しかしながら新しく予約図書を受け取ることが可能な施設を2か所増やし、利便性を向上させることができた。令和5年度も川島コミュニティセンターにおいて、新しく予約図書の取り置きサービスを開始している。	中央図書館	
98	VI	2	(1)	センター利用促進事業	市	幅広い年齢層の市民が気軽に利用できるようコンサートや映画上映会のほか、関心の高い趣味・教養分野の講座を開催する。			○	○	幅広い年齢層の市民が気軽に利用できるよう映画上映会のほか、英会話など関心の高い趣味・教養分野の講座を開催した。	市民の関心の高い講座や映画会の参加者数	1,022人	1,427人	A	有	新型コロナウイルス感染症の影響があったが、昨年度より参加者が増加した。今後も、幅広い年齢層の市民が気軽に参加しやすい講座の開催を検討する。	生涯学習センター	
	VI	1	(1)																

高松市生涯学習事業推進状況一覧表

No	施策体系 (別紙1) 参照			事業名	実施 主体	事業概要	重点項目 (別紙2) 参照				R4年度事業内容 (実績)	評価指標				成果と 今後の課題	課名	
							ア	イ	ウ	エ		指標名	令和3年度 実績	令和4年度 実績	評価			※新型コロナ ウイルス感染 症の影響
99	VI	2	(1)	本のソムリエ派遣事業	市	図書館司書(本のソムリエ)を派遣し、図書館の仕組みや便利な使い方、本の上手な探し方などを周知する。	○				団体等からの要請に応じ、図書館司書によるレクチャーを基本に、図書館を知り、本に親しんでもらう企画として、本のソムリエ(本の専門知識を持った職員)の派遣を実施する。	ソムリエの派遣回数	6回	5回	B	有	昨年度と比較して派遣数は概ね前年度並ではあるものの、「コロナ前」と比較して減少していることから、「コロナ後」における新規派遣希望団体の確保が課題となっている。	中央図書館
	VI	1	(1)															
100	VI	2	(1)	図書館図書市民一人あたり貸出冊数(年間)	市	-				○	市民の教育・文化の情報拠点として市民に役立つ図書館づくりを目指し、多くの方に利用していただいた。	図書館図書市民一人あたり貸出冊数(年間)	6.1冊	5.9冊	B	無	新型コロナウイルス感染症の影響による休館はなかったものの、貸出冊数は前年度比マイナスとなった。今後も市民の教育・文化の情報拠点として市民に役立つ図書館づくりを目指し、利用促進を図る。	中央図書館